「物質文化」　総目次（第 1 号～第 100 号）

『物質文化』のバックナンバーは、メール(mate-cul@nanzan-u.ac.jp)でも注文できます。
氏名、住所（雑誌送付先)、誌名、巻号、部数をお知らせください。
・誌代：　『物質文化』　～92 号　: 1 冊　1,500 円　(非会員様送料有料)
93 号～96 号 : 1 冊　2,000 円
97 号　: 1 冊　2,500 円
98 号～　: 1 冊　3000 円

第 1 号（1963.4）
石刃鏃について　加藤晋平
福井県鳥浜貝塚をめぐる 2，3 の問題　森川昌和
縄文式土器よりみた生活の変遷　有働和子
土器の底　岡本　勇
邪馬台国東遷論の考古学的検討　中川成夫
露卯下駄の大きさ　宮本馨太郎

第 2 号（1963.9）
民具研究の回顧と展望　宮本馨太郎
アイヌの民具　名取武光
隔絶聚落の共同体的生活　長井政太郎
津軽地方の住居と民具　中村俊亀智
裏日本の生活と民具　富木友治
北秋田地方民具調査メモ　林　正崇
秋田マタギの風俗　富木隆蔵
庄内地方のバンドリ　犬塚幹士
民具に宿る信仰心理　中道　等
岩手地方の木器　森口多里
長野県下の削り掛資料　田中　磐
東海地方の民具　礒貝　勇

第 3 号（1964.4）
本州における細石刃文化の再検討　滝沢　浩
縄文時代における釣鈎の製作　金子浩昌

北海道の墓祉　　大塚和義
岩手県平泉中尊寺伝大池祉周辺遺跡出土瓦について　矢崎靖子

第４号（1964.9）
渋沢敬三先生のご逝去を悼む　　宮本馨太郎
関東地方西部の生活と民具　　中村俊亀智
関東地方東部の生業と民具　　瀬田鉄雄
甲州奈良田の生活と民具　田原　久
コケラ生産について　　礒貝　勇
伊勢型紙について　　古江　信
新潟県北部地方の木槽　　上原甲子郎
庄川系民家と大窪大工　　漆間元三
民具に見る考古性　　長岡博男
山陰における藤布の技術伝承　　石塚尊俊

第５号（1965.4）
日本の石刃石器群“Blade Industry”について　　大井晴男
北海道の土器に見られる突瘤文について　　松下 旦
いわゆる中尊寺供養願文の一考察　中川茂夫
竹細工の民族学的研究　　額田　巌

第６号（1965.10）
相模野台地におけるローム層内遺跡群の研究　　岡本勇・松沢亜生
オホーツク文化の葬制について　　藤本　強
「チャシ」の生活に関する一試論　鈴木公雄
岐阜県北部（飛騨）のくりぬき用具とわらび粉の製造工程　　長倉三郎

第７号（1966.4）
縄文時代の大型釣針　　金子浩昌
猪牙製有孔尖頭器の２つの機能　　渡辺　誠
桝形囲式土器の蓋と田舎館式土器の蓋　　林　謙作
弥生時代の石斧に関する２・３の問題　　木村　聰子
抉入離頭銛　　大塚　和義
Basketry の研究　額田　巌

第８号（1966.10）

弥生時代農耕具の伝統　　木下　忠
北海道に於ける擦文式土器時代の竪穴式住居址　　宇田川　洋
新潟県の一民家の普請とその衆中　宮沢智士
尖底土器の終焉　岡本　勇

第９号（1967.4）
インド・ビハール州南部石器時代文化の様相　　丸山次雄
西日本における縄文文化終末の時期　　外山和夫
民具研究と「村の職人」の問題　　中村たかを
おみきのくち-その分布と種類-　　田中　磐

第 10 号（1967.10）
縄文晩期における＜土版・岩版＞研究の前提　　小林達雄
素体複孔銛頭　　馬目順一
男鹿市脇本埋没家屋遺跡出土の続縄文土器について　富樫　泰時
蓑虫仙人小伝　　杉山荘平
田下駄の変遷　　潮田鉄雄

第 11 号（1968.4）
片刃石斧の出現時期　　加藤晋平
日本古代の鋸について　　吉川金次
オホーツク文化の偶像・動物意匠遺物　　大塚和義
鎌倉地方の「やぐら」発生に関する諸問題　大三輪竜彦

第 12 号（1968.10）
縄文文化後期初頭における釣針製作の一方法　　金子浩昌
西日本における縄文時代の網漁法について　　渡辺　誠
縄紋式時代の網代編み　　荒木　ヨシ
北海道と南樺太の琥珀玉について　松下　亘
茨城県の田下駄　潮田鉄雄

第 13 号（1969.4）
縄文早期末における穿孔尖（丸）底土器の用途　　橋本澄夫
地形からみた土器形式の態様　　川崎義雄
古墳出土の鋸について　　吉川金次
古アジア族のレイブレット（口唇装飾具）とモヨロ貝塚出土の類似品の再検討　高山　純

第 14 号（1969.10）
熱帯インドの旧石器時代編年とラテライト　丸山次雄
本邦歴史時代の鹿角杖について　　中村五郎
備讃瀬戸海域より引揚げられる古式タコ壷について　山本慶一
東南アジアにおける斧の着柄法　　大林太良

第 15 号（1970.4）
宮城県浅部貝塚出土のシカ・イノシシ遺体　林　謙作
東日本縄文時代後・晩期の網代編みについて　　荒木ヨシ
擦文式土器の形態分類と編年についての一試論　　菊池徹夫
お獅子の毛　　白木原和美
秤座と秤製作　　浅見　恵

第 16 号（1970.10）
日本列島に於ける細石刃インダストリー　　小林達雄
西都原埴輪舟と海外の類例　　大林太良
近世考古学の一課題　　中村たかを
竹製民具の構成理論　　額田　巌

第 17 号（1971.4）
北海道先土器石器群の年代について　　長谷川　寛・加藤晋平　樫田　元・小林賢一
宮城・浅部貝塚出土の動物遺体　　林　謙作
縄文土器の製作について　鈴川　朝宏
縄文式時代の網代編み　　荒木　ヨシ
東部パンジャーブにおける後期ハラッパー文化　　小西　正捷

第 18 号（1971.10）
台形石器について　　小田静夫
関東地方における住居址出土の鉄製農具について　　土井義夫
浅草寺私考　　加藤晋平

第 19 号（1972.4）
いわき市寺脇（修生院脇）貝塚における鹿角製釣針の製作技法　　金子浩昌
三浦半島における弥生時代の漁撈について　剣持輝久
千葉県・夷隅地域の横穴について　橋口定志

擦文集落の一分析例　　宇田川　洋

第 20 号（1972.10）
北陸における建仁寺流大工の展開　浅香年木
骨畑の謎をめぐって　　中丸和伯
民具論への前提　中村たかを
民具の地域史史料化に関する覚書　野村　崇
物質文化研究雑感　　大林太良
北方採集民の食物の形状　渡辺　仁

第 21 号（1973.4）
層序区分　　林　謙作
恵信尼文書にみえる“たう”と“たふし”について　中川成夫
考古学と民族学の間　　加藤晋平・宇田川　洋
茂呂系ナイフ形石器の細分と変遷に関する一試論　　白石浩之
美深型石器について　　松下　亘

第 22 号（1973.10）
Edge-ground stone tools from the Japanese preceramic culture
Shizuo Oda and Charles T. Keally
サイパン島の石製工具について　　江上幹幸
縄文土器の胎土分析　　鈴川朝宏・安孫子昭二

第 23 号（1974.9）
本州地方を中心とした先土器時代終末から縄文草創期における石器群の様相
　　鈴木保彦
土製太鼓覚書　　中村五郎
中世末期の宝篋印塔と宝塔　　斎藤彦司
17 世紀のアイヌ社会における地域性　　海保嶺夫
貝窯ノート　　橋本鉄雄

第 24 号（1975.1）
「原位置」論の現代的意義　　麻生　優
富山県における先土器時代石器群の概要と問題　　橋本　正
白山山麓の除雪具　　天野　武

第 25 号（1975.7）
関東・東北地方における先土器時代中期石器文化の地域性と共通性(1)　鎌田俊昭
長崎県日ノ岳遺跡の石器文化　　下川達弥
土馬考　小笠原好彦
民具学の方法　　田辺　悟
「包み」のシステム思考　額田　巌

第 26 号（1976.5）
スダレ状圧痕の研究　　渡辺　誠
関東・東北地方における先土器時代中期石器文化の地域性と共通性(2)　鎌田俊昭
湯屋の石風呂と鉄釜　　江谷　寛
中国山地の雪すきについて　　勝部正郊

第 27 号（1976.10）
縄文時代の陥穴と民族誌上の事例の比較　　今村啓爾
縄文時代の埋甕習俗　　佐藤　洋
ホタリ漁紹介　　立平　進
会員名簿

第 28 号（1977.9）
民具の転用-除雪具の場合を中心に-　　天野　武
ミクロネシアの民具構造　田辺　悟
新潟県下における貸鍬慣行　　大島暁雄
民具と俗信-箕と棧俵-　　大久根　茂
鰤荷の発生　　胡桃沢勘司

第 29 号（1978.2）
朱雀台遺跡におけるナイフ形石器の形態分析　　竹岡俊樹
小形器台・小形丸底坩の出現をめぐる諸問題　　加藤修司
龍骨車・踏車研究　　芳井敬郎
紀年民具紹介　　小坂広志

第 30 号（1978.8）
棍棒形石器について　　野村　崇・杉浦重信
北海道に現存している異色徳利について　　松下　亘
越後湯之谷クシキ割りとその用具　池田　亨

第 31 号（1978.12）
オホーツク文化の生業について　西本豊弘
弥生時代、片刃石器の実態　立平　進
八重山群島出土の古陶磁について　大浜永亘・関口広次
青森県における背負い運搬具の諸形態　外崎純一

第 32 号（1979.5）
石器製作工程〈下位構造〉の分析　竹岡俊樹
江戸の出土下駄　古泉　弘
小樽のカワラ　松下　亘

第 33 号（1979.8）
日本・朝鮮における鱗状紋装飾の大刀　穴沢咊光・馬目順一
美濃・妙土大窯の復元とその構造について　関口広次
アイヌの軽石製火皿の文化史的位置づけ　宇田川　洋

第 34 号（1980.1）
タイ発見の中国陶磁について　関口広次
いわゆる考古・民俗の展示における問題点　佐々木朝登
“歴史”考古学と博物館　坂詰秀一
いわゆる美術品の展示上の諸問題について　荒木伸介

第 35 号（1980.8）
北西太平洋沿岸地域における回転式銛頭の系統問題　山浦　清
古代遺跡出土カゴ類の基礎的研究　植松なおみ
房総宝篋印塔考　斎木　勝
考古学における木炭分析　千野裕道

第 36 号（1981.2）
南関東における古式土師器の様相　滝沢　亮
独木舟を用いた漁撈活動について　松岡達郎
トチのコザワシ　渡辺　誠
越中鰤の伝承　胡桃沢勘司

第 37 号（1981.8）

常陸国分寺の造瓦に関する覚書　　今泉　潔
先史時代における津軽海峡の渡航について　松岡達郎
奄美・沖縄地方における貝製漁網錘の研究　盛本　勲
物質文化としての町並景観　池田公一

第 38 号（1982.2）
沖縄本島先史貝塚からみた漁撈活動について　　伊波寿賀子
擦文文化の文献史的解釈　海保嶺夫
上総掘りの技術と伝承　　大島暁雄
奄美・沖縄地方における貝製漁網錘の研究（その２）　　盛本　勲

第 39 号（1982.8）
東国における前期古墳の再評価　　大村　直
南武蔵・多摩川流域における横穴式石室の導入と展開　　池上　悟
擦文時代以降における火処変遷の一考察　　乾　芳宏
秦憶丸小伝　　杉山荘平
上総掘りの伝播とその技術　大島暁雄

第 40 号（1983.2）
特集　中川成夫教授還暦記念
中川成夫教授略歴抄
中川成夫教授著作目録抄
漢代宮殿建築の考古学的研究
魏志倭人伝に見える「青大句珠」の一解釈
古代製塩に関する一考察
越後華報寺中世墓祉群の調査
中世の墓制について
飛鳥時代の寺院
中世考古学の諸問題
考古学よりみた中尊寺小考

第 41 号（1983.8）
九州の細石刃文化　　小畑弘巳
縄文時代焼礫集積遺構の形態的把握　　上田典男
印旛沼周辺地域に於ける弥生時代後期の様相　　浜田晋介
四ツ手綱考　　神野善治

総目次・同人名簿

第 42 号（1984.2）
北日本における古代信仰　高杉博章
北海道の鉄鍋について　越田賢一郎
「栃木桟瓦」の造瓦器具と製作技術　今泉　潔

第 43 号（1984.8）
マルーラ遺跡の発見と東南ヨーロッパの初期後氷期研究　中村友博
『一遍聖絵』に見る乞食の諸相　窪田涼子
奉納経筒よりみた四国八十八ケ所の成立　岡本桂典
近世の釘　金箱文夫

第 44 号（1985.2）
御代田式土器の再検討　大竹憲治
古代東国における鉄製紡錘車の研究　滝澤　亮
板碑の生産および流通について　倉田恵津子
平安期における小規模遺跡出現の意義　橋口定志

第 45 号（1985.8）
現代物質文化の考古学的研究　西藤清秀
修行窟小考　時枝　務
籾摺臼をめぐる諸問題-木摺臼と土摺臼-　大島暁雄

第 46 号（1986.2）
撚糸文系土器終末期の諸問題　原田昌幸
紙銭・紙衣・符　瀬川昌久
丘陵地帯に展開する古代集落の一様相　水口由紀子

第 47 号（1986.12）
土地と縄文人　宮崎　博
擦文式土器の刻印について　松下　亘
地下室考　小林　克
フローレス島・リオ族・リセ地域における伝統家屋の建築構造　杉島　敬志

第 48 号（1987.3）

先史時代環東中国海諸地域における骨角牙製漁撈具　雨宮瑞生
撚糸文系土器終末期の諸問題（Ⅱ）　原田昌幸
中世城館の発生と展開　中井　均
群倉考　胡桃沢勘司

第 49 号（1987.9）
平安時代の居住形態　土井義夫・渋江芳浩
平安時代の集落遺跡出土鏡の性格　菊池誠一
ヴェトナム出土の玦状耳飾り　横倉雅幸

第 50 号（1988.5）
古墳出現期の諸問題　高橋一夫
中世村落の形成と展開　広瀬和雄
江戸時代中・後期の瀬戸窯　仲野泰裕
近世遺跡と考古学　古泉　弘
北海道における中・近世考古学の現状と課題　越田賢一郎

第 51 号（1989.1）
古代東国村落史研究への一視点　宮瀧交二
技術研究と民具研究　大島暁雄
アイヌの伝統的漁具（マレク）の成立背景に関する一試論　出利葉浩司

第 52 号（1989.6）
撚糸文系土器終末期の諸問題（Ⅲ）　原田昌幸
縄文時代の剥片石器製作技術　上敷領　久
床面出土遺物の検討（Ⅰ）　桐生直彦
江戸における近世灰釉徳利の釘書について　小林謙一

第 53 号（1990.6）
縄文時代の集落研究と狩猟・採集民研究との接点　羽生淳子
称名寺旧境内出土の中世瓦　服部実喜・余語琢磨
近世焙烙の研究　佐々木　彰

第 54 号（1990.12）
ナイフ形石器文化の画期と変容　伊藤　健
撚糸文系土器終末期の諸問題（Ⅳ）　原田昌幸

南関東における竈形土器を持つ集落遺跡の性格　　水口由紀子
古代・中世の鉄鏃　　津野　仁

第 55 号（1991.9）
縄文時代中期初頭の居住形態　　金子直世
発掘調査された炭焼窯の基礎的研究　　村田文夫
北米プレーンズ・インディアンの物質文化　関　俊彦

第 56 号（1993.11）
北海道における細石刃石器群の展開　　白石典之
床面出土遺物の検討（Ⅱ）　　桐生直彦
試論中国古代の鋸　　白　雲翔　丹下昌之(訳)

第 57 号（1994.9）
縄文時代の妊産婦の埋葬　山田康弘
中世前期鎌倉における街形成の一端　　宗臺秀明
中国先史学再建論　　蘇　秉琦　小宮山真美子(訳)

第 58 号（1995.2）
縄文時代に於ける分業の一考察　　荒木ヨシ
オリガ文化の問題　　臼杵　勲
略論中国文明の起源　　巌　文明　三宅俊彦(訳)

第 59 号（1995.6）
エスノアーケオロジー入門　　安斎正人
抉入意匠の石器文化　　田中英司
「ことば」と「かたち」の狭間で　後藤　明
装飾古墳・装飾横穴の図文研究と課題　　石井輝義

第 60 号（1996.2）
伊勢湾周辺における弥生時代の鹿角製固定銛頭について　　久保禎子
古代常盤地域における土器様相　　中山雅弘
絵巻物に見る器とその解釈　　松本建速
恵山文化における魚形石器の機能・用途　　高瀬克範

第 61 号（1996.8）

擦文文化の終焉　瀬川拓郎
アイヌの杓子　　小杉康
総目次

第 62 号（1997.2）
バローチスターン農耕文化とその展開　　宗臺秀明
港市の橋　　坂井　隆
下総台地東京湾岸地域における縄文時代の遺跡立地　菊地　真

第 63 号（1997.9）
中部ベトナムの陶磁器生産と日本-16～17 世紀の日越交流-　菊池誠一
北日本における後北Ｃ２－Ｄ式期の集団様相　　石井　淳
亀ケ岡式土器における入組文のゆくえ　　福田正宏

第 64 号（1998.4）
ルソン島北部・カンカナイ社会において形作られた土器製作者の身体　大西秀之
近年のベトナム陶磁史研究の成果と課題　　菊池誠一

第 65 号（1998.9）
弥生文化以前-縄紋晩期における東シナ海・黄海をめぐる交流-　　中村五郎
道北オホーツク文化の「地域集団」の動態に関する考察-礼文島浜中２遺跡と香深井Ａ遺跡の関係から-　　小野裕子
千歳市オサツ 16 遺跡出土のオショロッコ型細石刃核について 大島秀俊・村上章久

第 66 号（1999.3）
内蒙古中南部における仰韶文化の出現　　小宮山真美子
アムール河口部におけるオホーツク文化併行土器の分類・編年　　Ｖ・デリューギン
アムール河口部のテバフ文化土器-デリューギン氏論文へのコメントとして-　　臼杵　勲
漁撈具から見た弥生文化と恵山文化　　山浦　清
排泄の場が占めてきた位置　　堀苑孝志

第 67 号（1999.5）
特集「日本考古学の来歴」によせて　　田中　聡
日本考古学の履歴　　内田好昭
日本考古学における「理論」の役割-文献史とのよりよい協業を目指して-　　佐々木憲一

社会的行為としての考古学-その構造に関するメタクリティーク-　　溝口孝司
環状列石構築に費やされた作業量-群馬県野村遺跡をモデルとする一試論-　　高沢周示

第 68 号（2000.1）
周堀の形と大きさ　　倉林眞砂斗
東北地方弥生時代前・中期の集落　高瀬克範
インド西ベンガル州における土器およびその製作技術　　関根光宏

第 69 号（2000.4）
縄文時代中期末葉～後期前葉の変動-複式炉を有する住居の消失と柄鏡形敷石住居の波及-
　　阿部昭典
下田ノ沢式土器の再検討-続縄文時代前半期の北海道東部における土器型式の動態-
　　熊木俊朗
絵巻物の食膳具を読む-『一遍聖絵』を中心に-　田中　信

第 70 号（2001.3）
縄文後期の拠点集落とその領域-渋谷区豊沢貝塚を中心として-　　菊地　真・松岡有希子
縄文人骨の装身具・副葬品の保有状況と土壙長　　山田康弘
オホーツク文化の動物儀礼　　上　奈緒美
マラヤ鉄器時代の石棺墓　川名広文

第 71 号（2001.8）
五所川原産須恵器の胎土分析　　松本建速
“トビニタイ文化”なる現象の追究　　大西秀之
総目次（第 1 号～第 70 号）

第 72 号（2002.1）
「神子柴・長者久保文化」の大陸渡来説批判-伝播系統論から形成過程論へ-
　　安斎正人
遼代契丹墓出土陶器の研究　　今野春樹
「古代東ポリネシア文化」と時期区分　　丸山清志

第 73 号（2002.9）
クラ交換の舞台裏-その物質文化的側面-　　後藤　明
注口状の突起を有する灯火具-出土資料を中心とした集成と考察-　　小川　望

北海道擦文文化期における鉄器の普及-出土率からの予察-　　笹田朋孝

第 74 号（2002.12）
西日本縄文時代狩猟採集民の住居構造-その変遷と社会生態学的意義-　坂口　隆
三累環頭大刀の編年-日本出土資料を中心に-　　野垣好史
中世・近世における鉄鍋の製作方法について　　小野哲也

第 75 号（2003.5）
北海道における焼畑跡　　横山英介
遼代契丹墓出土葬具について　　今野春樹
蝦夷と蕨手刀　　松本建速
歯冠計測値からみた近世遺跡出土のイヌについて(その３)-東京都千代田区飯田町遺跡堀跡南東部確認面出土資料を中心に-　加藤久雄

第 76 号（2003.11）
東北南部・関東北部の弥生時代中・後期墓制の変遷　岩井顕彦
中世の鎌倉と三浦半島周辺の漁撈具　　宗墓秀明
アイヌ墓の副葬品　　関根達人
列島各地における鉄鍋製作方法について　　小野哲也

第 77 号（2004.5）
宮ノ台式土器期社会の交流-石器製作システムの比較分析からの様相-　杉山浩平
礼文島における銛頭の変遷-銛頭からみた初期オホーツク文化の研究-　富田惠子
中世・近世における鉄鍋製作方法の地域差　小野哲也
エヴェン・コリャークの獣皮加工-カムチャッカ半島における民族考古学的基礎調査-　　高瀬克範

第 78 号（2005.3）
後期旧石器時代前半期の居住行動の変遷と技術構造の変容　　国武貞克
縄紋時代の研究法-林謙作箸『縄紋時代史Ⅰ・Ⅱ』を読む-　　安斎正人
巣鴨遺跡出土のガラス製品「ゴム風船型」について　前山由美子

第 79 号（2005.10）
明治三年品川縣「告論」の高札-物質文化としての明治時代初頭の高札-　　小川　望
東北北部における弥生時代の海岸遺跡　　齋藤瑞穂
“剥片尖頭器”はなぜ消えたか？-後期旧石器時代後半期前葉から中葉の東南九州における

技術構造の変容- 阿部　敬

第 80 号（2006.3）
関東平野北西部における弥生時代中期後半の石器の生産と流通　　杉山浩平
墓制からみた壷と甕　　古内 茂
関東地方における原史・古代の土錘について　　種石 悠
剥離物の実験考古学研究（Ⅰ）-全体分析と個別分析の試み-　長井謙治

第 81 号（2006.8）
エチオピア西南部の製鉄技術と鉄器使用　　村橋　勲・山末英嗣
信濃北部の円形周溝墓について　　森本幹彦
トビニタイ式土器における文様構成の系統と変遷　　榊田朋広

第 82 号（2006.11）
装飾付大刀変遷の諸段階　野垣好史
布教期におけるメダイの研究-16 世紀後半から 17 世紀前半にかけて-　今野春樹

第 83 号（2007.5）
インド・オリッサ州における布「ソンボロプリ」の生産体制と技術　　佐藤　誠
東北地方における原史・古代の土錘について　　種石　悠
「ヒグマ祭祀遺構」出土の「トビニタイ土器群Ⅱ」の位置-チャシコツ岬遺跡群編年の再検討
-　　柳澤清一

第 84 号（2007.10）
土器作り民族誌と考古学-ラピタ以後のニューギニア、マッシムの土器文化-　　根岸　洋
北近畿出土弥生時代鉄剣の再検討　岩井顕彦
異系統土器論からみたトビニタイ式土器と擦文土器の型式間交渉と動態　　榊田朋広

第 85 号（2008.5）
葬送儀礼における土器形式の選択と社会的カテゴリ-縄文時代後期関東・中部地方の土器副葬と土器被覆葬- 中村耕作
霞ヶ浦周辺地域の縄文時代後・晩期遺跡と「環状盛土遺構」　川島尚宗
東国石庖丁考-石庖丁の普及と稲作の北上-　古内　茂
「カリカリウス土器群」の小細別編年について　　柳澤清一

第 86 号（2009.2）

閉ざされた「中心」と開かれた「周縁」：北インド、ワーラーナシーにおけるシヴァ寺院とディー・バーバーの祠に関する比較研究　　小松原秀信
愛知県朝日遺跡出土の骨角製装身具類について　　川添和暁
島根県西川津遺跡の狩猟活動　　中川毅人

第 87 号（2009.7）
カラムカリの技術習得とその変化における「伝統性」-南インド、シュリー・カラーハスティの手描き模様染色布の事例から- 松村恵里
東北地方・縄文晩期における弧状土製品-北部を中心として-　金子昭彦
古墳時代の弓矢猟-東日本集落遺跡出土鏃の検討を通じて-　　種石　悠

第 88 号（2010.3）
南レヴァントにおけるオリントス式石臼-東地中海における石臼海上交易の実態と背景-　　長谷川修一
「エトロフ型石斧」の使用痕分析　高瀬克範
石材から見た磨製石斧　奥東京湾東西地域における構成岩種の違いに関する予察　　柴田　徹

第 89 号（2010.12）
台東区で検出された特殊土坑の性格について-牡蠣殻採掘坑の可能性の検討-　　川西直樹
桜ヶ丘５号銅鐸の絵画-I 字形具を持つ人物絵画の復原-　　内田律雄
「鳥犀圓」銘を有する磁器合子蓋-会津藩保科（松平）家屋敷跡遺跡出土資料-　石神裕之

第 90 号（2011.3）
中世利根川流域における武蔵型板碑の流通　倉田恵津子
オクヴィック文化・古ベーリング海文化おける銛頭の型式学的研究-ウエーレン・エクヴェン遺跡出土資料の分析-　山浦　清
サハリン東タライカ貝塚出土の銛頭　　前田　潮

第 91 号（2011.11）
「在地土器」生成過程に関する一考察-新潟県における縄文時代後期後葉大波状口縁深鉢の変遷-　古澤妥史
道東部における竪穴住居跡の変遷とトビニタイ土器群 II の成立-知床・斜里・標津を中心として-　柳澤清一
構成岩種から見た南関東地方における弥生時代の磨製石斧-千葉県佐倉市大崎台遺跡と神奈川県秦野市砂田台遺跡の磨製石斧から-　柴田　徹

第 92 号（2012.3）

ゴミ問題の発生　　田村　隆
新石器時代中期～晩期における日韓土器文化交流の特質―東北アジアにおける異系統土器文化接触の比較―　　古澤義久
中世利根川流域における武蔵型板碑の生産および流通　　倉田恵津子

物質文化 93 号　(2013.3)

特集：土器の民族考古学／序論―土器における生産・交換・象徴の諸側面―
石村　智・大西秀之・角南聡一郎
ことばを介さない土器のやりとりとあらたな器種の創造―エチオピア西南部の定期市における土器の売買を手がかりにして―　　金子守恵
西南中国及び東南アジア大陸部における伝統的土器製作の分業・協業関係の変容―製作者主体の移譲と非職能者の関与をめぐって―　　徳澤啓一
土器作り道具の持続と変化―フィリピン、ルソン島北部の事例から―　　田中和彦
土器つくりの現在と専業化プロセス―タイ東北部土器生産地ダーン・クウィアンの事例から―　　中村真里絵
〔論文〕
使用痕観察、残存デンプン分析からみた根茎類敲砕用の台石―長野県松本市のワラビ根、石川県宝達志水町のクズ根を中心に―　　上條信彦
古代東北・北海道における土製支脚の系譜とその意義　　柏木大延
信濃における後期・終末期古墳副葬鏃の変遷　　平林大樹
投稿規程/『物質文化』、『貝塚』執筆要項

物質文化 94(2014.3)

特集：縄文時代草創期と広域連動
隆起線紋土器における広域連動―花見山式の再設定および三角山式の設定より―
大塚達朗
九州における縄文時代草創期石器群の広域連動　　芝 康次郎
日本列島における出現期石鏃の型式変遷と広域連動　及川 穣
九州における爪形文土器の編年上の位置付けについて　　村上 昇
出現期土器の年代測定値の評価　　遠部 慎
〔論文〕
現代における中国の伝統的文化資源―新粉細工の現状―　　馬 涛涛
美濃窯における近代高田徳利終末期の様相―徳利販売商人の記録から―春日美海
投稿規程/『物質文化』、『貝塚』執筆要項

第 95 号（2015.3）

特集：海を通じた技術移転と社会変化

特集にあたって　―日本列島を取り巻く海―　　中村　大介・魚津知克・後藤　明

ロシア極東の沿海州における新石器時代から古金属器時代の考古文化と技術刷新

Dr. Alexander N. Popov, Boris V. Lasin, Dr. Andrei V. Tabarev

引き伸ばし法によるガラス小玉の系譜と伝播　　田村　朋美

楽浪郡以南における鉄とガラスの流通と技術移転　　中村　大介

古墳時開始期前後における玉類の舶載　　谷澤　亜里

朝鮮半島から日本列島への大型脚付台制作技術と食事様式の移行　　長友　朋子

〔投稿論文〕

脚台式製塩土器の製作技法復元をめぐる民俗陶芸学的考察　　幸泉　満夫

アイヌ文化期における漆塗椀の基礎的研究　　清水　香

植民地期初期メキシコ中央高原の史料に見る黒曜石の呪医的利用―物質化された治癒神の特性―　　千葉　裕太

宮古・八重山諸島・無土器期における地域間変異と生態資源利用　　山極　海嗣

福井洞穴の爪形紋土器　　大塚　達朗

投稿規程/『物質文化』、『貝塚』 執筆要項

第 96 号（2016.3）

特集：「建築人類学」の行方

特集：「建築人類学」の行方／序　　藏本　龍介

建築人類学 2.1－中国黄土高原における窯洞の住居観・建築観をもとにした一考察－

栗原　伸治

暗闇の住まいが語りかけたこと－これからの建築に向けて　　清水　郁郎

古代建築のスカイスケープ－建築に見るコスモビジョン－　　後藤　明

福建の船上生活者にとって「家」とは何か－ある家族の年代記から－　　藤川　美代子

〔投稿論文〕

金属切削加工に従事する町工場の技術－シェーン・オペラトワール論を分析視座として－

加藤　英明

ラオス・アタプー県オイ族の伝統的米作りの変容過程　　小林正史・外山政子・北野博司

消費される縄紋文化　　大塚　達朗

投稿規程/『物質文化』、『貝塚』 執筆要項

第 97 号（2017.6）

特集：縄文時代前期土器型式群研究の新展望

縄文時代前期土器諸型式の系統関係－文様帯の視点から　　松田　光太郎
東北地方南部における前期初頭土器群の変遷と空間変異　　早瀬　亮介
北白川下層Ⅱ式における浅鉢型土器の成立・展開とその社会的背景―土器保有量の空間分析からのアプローチ―　　稲畑　航平
前期後葉凸帯文・特殊凸帯文土器の東への広がり　　山岸　洋一
〔投稿論文〕
千鳥アイヌの犬橇　　鈴木　建治
沖縄県宮古島の先史時代におけるシャコガイ製貝斧の展開―浦底遺跡出土貝斧の分析を基にした時空間的変異の検証―　　山極　海嗣　・久貝　弥嗣
琵琶湖水位変動に関する考古学的研究－古代末から中世にかけての様相－　　中川　永
投稿規程/『物質文化』、『貝塚』　執筆要項

第 98 号（2018.5）
特集：古代に蒸したウルチ米が主食となった背景
総論 古墳時代・古代の米蒸し調理　　小林正史
東日本の竈構造と構成要素再考－東西日本の煮炊きの違いを考えるために－　外山　政子
古墳時代後期から平安時代のカマドの様相と、食糧生産、蒸し調理の地域差－東京の台地と丘陵地を比較して－　　久世　深雪
西日本の竈構造と構成要素−東・西日本間の煮炊きの違い−　　合田　幸美
西日本の鍋釜のススコゲと形・作りからみた米蒸しの方法　　妹尾　裕介
竈構造の時間的変化と地域差についての定量的分析　　小林　正史
韓半島における一つ掛け竈と二つ掛け竈　　韓　志仙・長友　朋子
〔投稿論文〕
縄文時代の布の発生とその製作技法の一考察　　田中　明子
投稿規程/『物質文化』、『貝塚』　執筆要項

第 99 号（2019.4）
特集：日本先史考古学からの提言
セリエーション―時間・空間・系統―　　白川綾
小型の環状列石と鷲ノ木遺跡「竪穴墓域」　　西脇対名夫
東北北部環状列石研究の現段階　　小林克
〔投稿論文〕
北タイ・カレン族の伝統的炊飯方法　　小林正史
投稿規程／『物質文化』、『貝塚』執筆要項

第 100 号（2020.5）　　特集：環日本海北部地域における土器出現期の様相

特集「環日本海北部地域における土器出現期の様相」の趣旨　　橋詰　潤
北東アジアにおける土器の出現年代と食性分析　　國木田　大
アムール川下流域における土器出現期研究の現状と課題　　橋詰　潤
北海道における更新世・完新世移行期の土器出現と文化形成　　夏木　大吾
ロシア極東における出現期土器　　内田和典
華北地方における早期土器―その出現と拡散―　　加藤真二
［100 号記念論文］
石器製作者の技量とその伝習過程への考古学的アプローチ　　高倉　純
長野県生仁遺跡出土抜歯人骨の年代をめぐって
設楽博己・近藤修・米田穣・平林大樹
"山陰地域における湯取り法炊飯から米蒸調理への転換過程　―山陰では造り付けカマドを受け入れなかった理由―"　小林正史
"タグリ神信仰と石造物の転用－仏教信仰物から民間信仰の対象への変容－"　角南総一郎
［投稿論文］
トゥトアンクアメン王墓出土のトランペット―図像から見た新解釈―　　野中　亜紀
正誤表
投稿規定/『物質文化』『貝塚』執筆要項